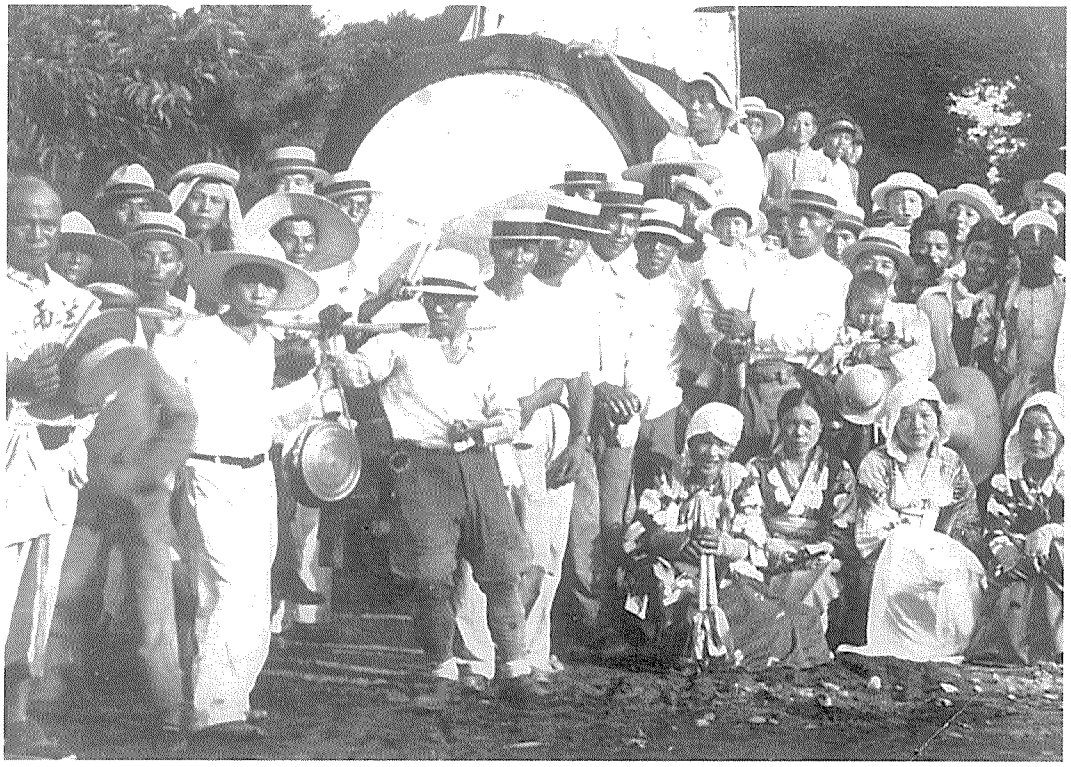
宇土雨乞い大太鼓調査報告書

―― 熊本県地域総合補助金文化の香り高いまちづくり事業 ――



2000年

熊本県宇土市教育委員会

表紙写真

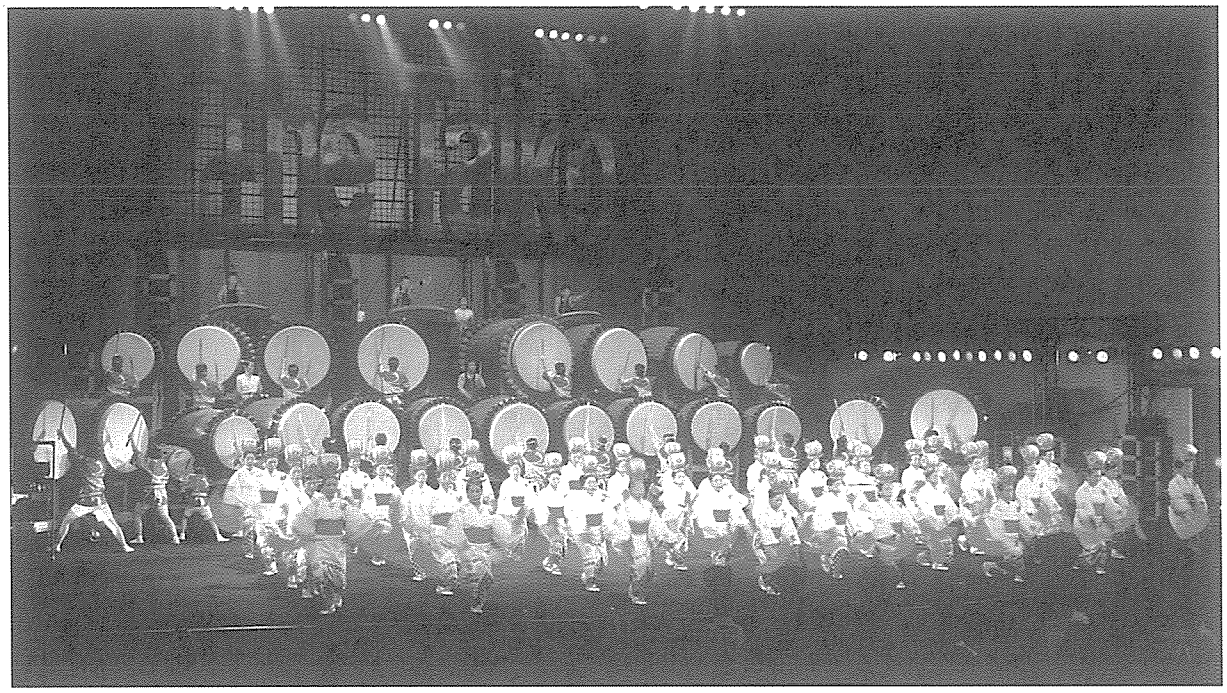
昭和10年頃の雨乞い大太鼓張替之祝

（城　　区）

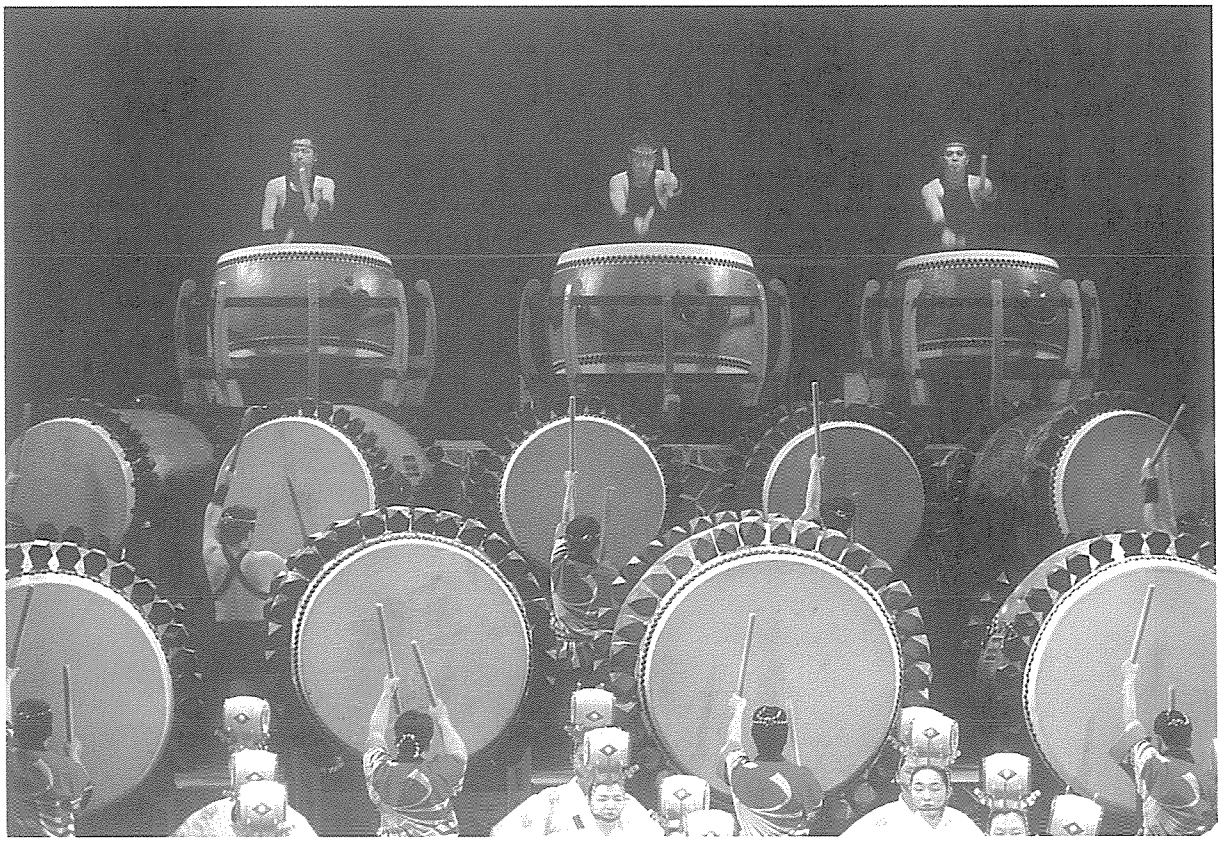
椿原八幡への太鼓奉納

明治100年記念事業での椿原地区太鼓（昭和43年）

城地区太鼓皮張替記念写真（昭和10年頃）



熊本の空が響く（平成７年２月熊本県立劇場にて）



いま緑川は流れる（平成９年２月熊本県立劇場にて）

序

宇土市には、江戸時代から明治・大正時代にかけて造られた雨乞大太鼓が数多くあります。これを何とか保存し、後世に残していこうという声が市民の中から起こってきましたので、平成３年度にふるさと創生事業の一環として、これらの太鼓の張り替えや修復を行い、あわせて大太鼓を収納・展示するための施設として、宇土市大太鼓収蔵館を建設しました。

また、これを契機として宇土雨乞大太鼓保存会ができ、昭和61年にはじまった大太鼓フェスティバルもすでに平成11年８月で14回を数えました。

今回、平成９年度より平成11年度まで熊本県地域総合補助金「文化の香り高いまちづくり」の補助を受け、「宇土雨乞い大太鼓活用事業基本計画書」の作成、太鼓演奏のプロによる「雨乞い太鼓」の作曲や太鼓の打ち手育成、宮太鼓の購入といったソフト、ハード両面の整備を行ってきました。宇土雨乞い大太鼓報告書の発刊もこの事業の一環として位置付けられます。

宇土の雨乞い太鼓とひとくちにいっても、現在大太鼓収蔵館に保管展示されている27基がすべてではありません。とくに、戦前までは宇土市内の多くの村で雨乞い太鼓が残っていたことが、今回の調査で分かり、その数は40基にものぼります。これら宇土市内の雨乞い太鼓に関する調査には、多くの人手と時間を要しました。特に熊本大学文学部安田宗生先生、鹿児島大学法文学部徳丸亞木先生および同学部基層文化研究室のご協力もあって、ここに調査報告書の発刊に至りましたことを感謝申し上げます。

宇土市の各地区では、雨乞い太鼓に関する新しい動きもでてきました。平成11年７月24日には、熊本大学工学部が所有する石橋地区の大太鼓が里帰りし、「石橋太鼓里帰り祭り」が行われました。本報告書が多くの皆様に活用され、新しい雨乞い太鼓と人間との関わりのきっかけとなれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり多大なるご協力をいただきました各地区嘱託員、話者ならびに関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成12年３月

宇土市教育長　坂　本　光　隆

例　　言

1、本書は、熊本県地域振興総合補助金（所管：熊本県文化企画課、熊本県宇城事務所）を得て、実施した「文化の香り高いまちづくり事業」の一環として行なった雨乞い大太鼓の歴史民俗調査報告書である。

2、民俗調査の実施にあたっては、各地区の有識者・世話役の方々から詳細にわたって行なった聞き取りと、アンケート調査等を実施したものである。

3、歴史調査は、宇土市教育委員会が保管したり、寄託を受けている資料を調査したものである。特に雨乞大太鼓をふるさと創生事業として再生復興する以前の太鼓関係資料については、宇城青年会議所による詳細な調査成果を参考にしている。

4、大太鼓の実測は、ダイチプランに委託して行い、大太鼓と関連資料の撮影は、カマノ商会（江上邦博氏）に委託したものである。
　古写真は中田幸夫氏、椿原地区の提供による。

5、鉦と木星の実測は、本松亜希子が行なった。

6、本書の執筆は、安田宗生・徳丸亜木・高木恭二・木下洋介・淵上真行・松下修也が行ない、分担はそれぞれ文末に明記した。

7、編集は、安田・徳丸の助言を得ながら、宇土市教育委員会文化振興課が行った。

目　次

第１章　はじめに……1

第２章　宇土雨乞い大太鼓の再生と活用……2
　第１節　大太鼓の再生……2
　第２節　ふるさと創生事業……2
　第３節　大太鼓の活用……5
　第４節　大太鼓活用事業……6
第３章　民俗調査編……8
　第１節　民俗調査の概要……8
　　資料１　雨乞い太鼓調査質問票……8
　　資料２　雨乞い太鼓アンケート……11
　第２節　宇土市各地区における雨乞い太鼓……14
　　① 宇土・走潟ブロック
　　平木地区……14
　　松原地区……15
　　築籠地区……17
　　② 花園ブロック
　　上古閑地区……18
　　立岡地区……21
　　佐野地区……21
　　③ 轟ブロック
　　椿原地区……23
　　飯塚地区……25
　　石橋地区……29
　　宮庄地区……32
　　伊無田地区……34
　　栗崎地区……35
　　④ 緑川ブロック
　　笹原地区……37
　　新開地区……37
　　城塚地区……38
　　恵塚（恵里）地区……39
　　⑤ 網津ブロック
　　網引地区……40
　　馬門地区……41
　　西中村地区……42
　　笠岩地区……43

猪白地区……44
⑥ 網田ブロック
堂園地区……45
引の花地区……47
下戸田地区……49
中登地区……49
寺登地区……50
第３節　宇土雨乞い大太鼓解説……50
おわりに－雨乞い太鼓の今日的意義に関して－……54
第４節　熊本の雨乞いについて……59

第４章　歴史調査編……65
第１節　はじめに……65
第２節　雨乞い関係古文書史料……66
第３節　歴史資料……88
⑴ 雨乞太鼓 ……88
① 太鼓について ……88
② 宇土市の雨乞太鼓 ……88
③ 太鼓の銘 ……90
④ 長胴太鼓 ……92
⑤ 長胴太鼓の分類 ……93
⑥ ドラ太鼓 ……99
⑦ 長胴・ドラ太鼓の分布 ……99
⑵ 鉦……101
⑶ 笛……103
⑷ 油単……103
⑸ 幕……103
⑹ 鮓荅……103
第４節　おわりに ……105

第５章　雨乞い大太鼓保存、活用の問題点 ……108

第６章　結び ……110

図　版　目　次

表紙写真	城地区太鼓皮張替記念写真（昭和10年頃）
口絵写真１	椿原八幡への太鼓奉納
口絵写真２	明治100年記念事業での椿原地区太鼓（昭和43年）
口絵写真３	城地区太鼓皮張替記念写真（昭和10年頃）
口絵写真４	熊本の空が響く（平成７年２月熊本県立劇場にて）
口絵写真５	いま緑川は流れる（平成９年２月熊本県立劇場にて）

民俗調査写真

写真１	ドラ（松原地区）
写真２	ドラ（築籠地区）
写真３	カワマツリのカックリ（上古閑地区）
写真４	大太鼓に貼られた「お花」（上古閑地区）
写真５	鉦（椿原地区）
写真６	椿原八幡宮の石段
写真７～16	太鼓に担い棒を結び付ける過程（椿原地区）
写真17	天神の森（石橋地区）
写真18	神像が線刻された岩（石橋地区）
写真19	太鼓と油単（石橋地区）
写真20～25	太鼓に担い棒を結び付ける過程（石橋地区）
写真26	揃いの法被を身に纏う（石橋地区）
写真27	太鼓を台車に乗せ天神へ運ぶ（石橋地区）
写真28	行列の鉦（石橋地区）
写真29	太鼓を台車から降ろし担いで登る（石橋地区）
写真30	天神の森へ向かう雨乞い大太鼓（石橋地区）
写真31	鳥居をくぐり、境内に太鼓を入れる（石橋地区）
写真32	天神に集う人々（中央が神木、石橋地区）
写真33	神官による神事（石橋地区）
写真34	太鼓が保管されていた公民館（宮庄地区）
写真35	「譲渡証書」（栗崎地区）
写真36	太鼓小屋（馬門地区）
写真37	太鼓を叩き模範を示す伝承者達（引の花地区）
写真38	鉦を打つ伝承者（引の花地区）
写真39	太鼓の練習を行う子供達（引の花地区）
写真40	紅白の餅を丸める婦人達（引の花地区）
写真41	雨乞い踊りの練習（引の花地区）
写真42	フェスティバル当日の祝宴（引の花地区）
写真43	柱に貼られた「お花」の金額（引の花地区）
写真44	樽御輿に使う里芋の葉が運ばれて来る（引の花地区）

写真45　樽御輿の製作（引の花地区）
写真46　太鼓を公民館から運び出す（引の花地区）
写真47　太鼓を飾る（引の花地区）
写真48　網田神社への道行き（引の花地区）
写真49　網田神社の鳥居をくぐる太鼓（引の花地区）
写真50　網田神社での太鼓奉納（引の花地区）
写真51　フェスティバル会場への道行き（引の花地区）
写真52　道行きの太鼓（引の花地区）
写真53　道行きの鉦（引の花地区）
写真54　樽御輿（引の花地区）
写真55　見物人に餅を撒く（引の花地区）
写真56　フェスティバル会場での太鼓の奏演（引の花地区）
写真57　樽御輿を中心に雨乞い踊りを演じる（引の花地区）

歴史調査写真

巻末写真１　笹原地区大太鼓
巻末写真２－１　椿原地区大太鼓　1
巻末写真２－２　椿原地区大太鼓　2
巻末写真２－３　椿原地区大太鼓　3
巻末写真３　飯塚地区大太鼓
巻末写真４－１　上新開地区大太鼓　1
巻末写真４－２　上新開地区大太鼓　2
巻末写真４－３　上新開地区大太鼓　3
巻末写真５　城塚地区大太鼓
巻末写真６　恵里地区大太鼓
巻末写真７　上古閑地区大太鼓
巻末写真８　宮庄地区大太鼓
巻末写真９　馬門地区大太鼓
巻末写真10　立岡地区大太鼓
巻末写真11　北段原地区大太鼓
巻末写真12　伊無田地区大太鼓
巻末写真13　新川東地区大太鼓
巻末写真14　堂園地区大太鼓
巻末写真15　中村地区大太鼓
巻末写真16　小舟地区大太鼓
巻末写真17　引の花地区大太鼓
巻末写真18　笠岩地区大太鼓
巻末写真19　平木地区大太鼓
巻末写真20　猪白地区大太鼓
巻末写真21　下登地区大太鼓
巻末写真22　中登地区大太鼓

巻末写真23　寺登地区大太鼓
巻末写真24　栗崎地区大太鼓
巻末写真25　松原地区大太鼓
巻末写真26　築龍地区大太鼓
巻末写真27　佐野地区大太鼓銘文
巻末写真28　上古閑地区鉦１
巻末写真29　上古閑地区鉦２
巻末写真30　伊無田地区鉦１
巻末写真31　伊無田地区鉦２
巻末写真32　新川東地区鉦
巻末写真33　油単が掛られた伊無田地区太鼓
巻末写真34　史料１写真（那須文書）
巻末写真35　史料２写真（那須文書）
巻末写真36　史料３写真（那須文書）
巻末写真37　史料12写真（伊無田区文書）
巻末写真38　史料13写真（伊無田区文書）
巻末写真39　史料14写真（伊無田区文書）
巻末写真40　皮張替作業風景１（鼓面の上に人が載って、紐で締めていく）
巻末写真41　皮張替作業風景２（同上）
巻末写真42　鮓荅
巻末写真43　鮓荅木箱蓋
巻末写真44－１　昭和29年の椿原さなぶり（太鼓揚げの準備１）、田中昭氏撮影
巻末写真44－２　昭和29年の椿原さなぶり（太鼓揚げの準備２）、田中昭氏撮影
巻末写真44－３　昭和29年の椿原さなぶり（太鼓揚げの準備完了）、田中昭氏撮影
巻末写真44－４　昭和29年の椿原さなぶり（椿原八幡の境内にて）、田中昭氏撮影
巻末写真44－５　昭和29年の椿原さなぶり（椿原八幡を出る大太鼓）、田中昭氏撮影
巻末写真44－６　昭和29年の椿原さなぶり（椿原八幡を出て村をまわる大太鼓）、田中昭氏撮影
巻末写真45　宇土大太鼓収蔵館の外観
巻末写真46　宇土大太鼓収蔵館内部

挿　図　目　次

第１図　三蔵地区太鼓木星実測図
第２図　長胴太鼓実測図（上新開）
第３図　太鼓分布図
第４図　伊無田地区鉦２実測図
第５図　鐘巻雨乞図

表　目　次

第１表　　ふるさと創生事業より以前に復興された太鼓一覧
第２表　　ふるさと創生事業で復興された太鼓
第３表　　開館当時の展示品
第４表　　大太鼓フェスティバル出演保存会一覧
第５表　　新伝承宇土大太鼓26の出演
第６表　　大太鼓活用事業の基本方針と実績
第７表　　雨乞い大太鼓アンケート集計表
第８表　　宇土市雨乞大太鼓一覧表
第９表　　雨乞大太鼓計測表
第10表　　太鼓各部位計測編年表
第11表　　鉦計測一覧表
第12表　　宇土市雨乞い関係年表

第１章　はじめに

市内には非常に多くの雨乞い太鼓が伝承されてきている。そのほとんどが、農業、なかんずく稲作と深くかかわる芸能である。稲がその生育の過程で水を必要とする時期に、太平洋高気圧に覆われ、しばしば水不足に見舞われるという気候条件がこのような雨乞いの芸能を生み出した原因と考えられる。戦前までは宇土に限らず、県下各地で数多くの雨乞いの芸能が毎年のように演じられてきていたのも同様の理由によると思われる。

しかし、戦後になって県下のほとんどの雨乞いの芸能が衰退し、今ではかつて行われていたことすら忘れられている地区も少なくない。そのなかで、宇土では現在も多くの地区で雨乞い太鼓が継承されているということはおそらく全国的にも類例をみないものであろう。

雨乞い太鼓が市内各地区に伝えられているということは、すなわち、我々の祖先がいかに稲作に情熱を傾けてきたかということを示すものである。さらに、これらの雨乞い太鼓が常に神仏に奉納される芸能であることを知ることは大切なことである。農業は自然の力を借りなければできないのであるが、自然は時として人々に味方してくれないこともある。その時に神仏の加護を求めて作り出したものが雨乞い太鼓であるということができる。そのことに気付けば、雨乞い太鼓から、我々の祖先が自然への畏敬の念を抱きつつ日々の生活を送っていたことを理解することができるのではないだろうか。

（安田宗生）

第２章　宇土雨乞い大太鼓の再生と活用

第１節　大太鼓の再生

宇土市は、江戸時代に宇土細川藩３万石の陣屋が置かれ、武家屋敷と町屋で宇土町を形成しており、そこが現在も市街地の中心をなしている。宇土町以外の地域の多くは農村地帯であり、集落毎に雨乞い太鼓を所有していた。

江戸時代から明治時代にかけて造られた大太鼓は、欅の一木を刳り抜いたもので、面径81～132cmを図り、縁に木星と呼ばれる飾りが付くのが特色である。鉦のリズムに合わせて叩き、笛の音とともに村人が踊るといった「雨乞い祭り」や「虫追い」の行事が、戦前までは各地区で盛んに行われていた。

しかし、戦後の急激な社会変化の中でこれらの行事は行われなくなり、ほとんどの雨乞い大太鼓は次第に忘れ去られ、あるものは朽ち果て、あるものは売られたりして姿を消していった。

昭和40年代になり、椿原大太鼓の皮は破れている状態であったが、様々な地域活動に利用されるようになった。そこで、昭和48年に市の補助で大太鼓の修復、皮の張り替えを行い、同年８月18日に「椿原雨乞い太鼓踊り」が、宇土市無形民俗文化財の指定となった。これを契機に他の地区でも大太鼓再興の兆しが見え始めてきた。

昭和61年には、財団法人自治総合センターのコミュニティー助成を受け、堂園、上古閑の雨乞い大太鼓を修復し、この年から開催された「宇土大太鼓フェスティバル」で、椿原、馬門と共演している。

また、同年、（社）宇城青年会議所「創立10周年記念式典」に椿原雨乞い太鼓踊り保存会の出演が契機となり、大太鼓による地域づくりが叫ばれるようになった。

県外での活動としては、平成元年７月28日、椿原大太鼓が北九州市で開催された「わっしょい百万夏祭り」、平成２年１月東京ドームで開催された「ふるさとフェア'90」に出展するなど再興の気運が高まった。そして、（社）宇城青年会議所を中心に雨乞い大太鼓の確認調査等が行なわれ、各地区の神社、寺、お堂、小屋等にほこりをかぶったまま放置された大太鼓が数多く残されていることが明らかになってきた。

第１表　ふるさと創生事業より以前に復興された太鼓一覧

No	大太鼓名	張替時期	保管場所（張替後）
1	椿　原	昭和48年	市民会館ロビー
2	馬　門	昭和62年	地区太鼓小屋
3	上古閑	昭和61年	地区保管庫
4	堂　園	昭和61年	網田中玄関ロビー
5	中　登	昭和62年	網田小太鼓小屋
6	城　塚	昭和49年	地区消防小屋

第２節　ふるさと創生事業

このような経緯の中で、平成元年、竹下登首相提案による「ふるさと創生事業」がはじま

り、全国各地で特色ある事業が発案された。宇土市では、市民意識調査、市政モニター等から提言され、「宇土市ふるさとづくり協議会」で慎重に協議され、「ふるさと大太鼓復興事業」と「ふるさと町並保存事業」に活用するとの具申がなされ決定に至った。

①大太鼓の再生

大太鼓確認調査の結果、新たに20基の大太鼓を再生することになった。平成２年度・３年度で、不知火町の堀口太鼓店、熊本市の宮村太鼓店に委託して修復を行った。修復が完了したものについては、ＪＲ宇土駅東側にあったＪＡの倉庫に臨時的に保管した。

また、修理を終えたものは、地元での披露が行われ、幾つかの地区で、祭りの復活もあり、次第に盛り上がりをみせていった。

なお、佐野地区の大太鼓は大きく割れているものの修復は不可能ではないということであった。しかし全ての大太鼓を張り替えてしまうと、太鼓内部がどのようになっているのかわからなくなるので、この１基だけは修復、張り替えをせず、内部を見せるようにし、紀年銘も見せるようにした。

第２表　ふるさと創生事業で復興された太鼓

No	大太鼓名	保管場所	修復時期	修復価格　（円）	太鼓店名
1	築　籠	天満宮	平成２年３月９日	848,500	宮　村
2	栗　崎	栗田氏個人宅	平成２年３月９日	600,000	宮　村
3	宮　庄	地区公民館	平成２年３月９日	800,000	宮　村
4	伊無田	天神社	平成２年３月31日	800,000	宮　村
5	笹　原	厳島神社	平成２年３月31日	900,000	宮　村
6	猪　白	稲荷神社	平成２年３月31日	750,000	宮　村
7	平　木	区長宅倉庫	平成２年３月31日	750,000	宮　村
8	新川東	住吉神社倉庫	平成２年７月30日	700,000	宮　村
9	寺　登	西宗寺	平成２年７月30日	630,000	堀　口
10	松　原	西安寺	平成２年７月30日	802,000	宮　村
11	笠　岩	地区消防小屋	平成２年７月30日	700,000	宮　村
12	小　舟	明賢寺	平成２年８月４日	680,000	堀　口
13	上新開	地区内お堂	平成２年８月４日	775,000	堀　口
14	飯　塚	天神社	平成２年10月31日	800,000	宮　村
15	引の花	地区内お宮	平成２年10月31日	700,000	宮　村
16	下戸田	地区内お宮	平成２年11月28日	700,000	宮　村
17	立　岡	地区公民館	平成２年11月28日	750,000	宮　村
18	北段原	地区内倉庫	平成２年11月28日	750,000	堀　口
19	恵　里	三輪工業	平成２年11月28日	800,000	宮　村
20	中　村	民家	平成２年11月28日	700,000	宮　村
21	馬　門	地区内倉庫	平成２年12月	皮張替のみ	宮　村

②収蔵施設の建設

元来、雨乞い太鼓は地元の太鼓小屋で保管されていたが、一括保管の要望が強く、保管施設の建設がなされるようになった。

建設地については、幾つかあげられた候補地の中から協議・検討がなされた結果、名水百

選となっている轟水源の近接地とすることに決定された。当初設計では、保管庫としての役目だけだったが、所管を教育委員会に移し資料館的役割をもたせるように設計を変更することになり、展示・ビデオコーナーを設け、雨乞い関係の資料展示も行うようになった。

館の名称を「宇土市大太鼓収蔵館」とし、設置の目的を“大太鼓並びに太鼓にかかわる資料等を保管、展示し、広く市民の伝統芸能文化の継承及び保存育成に寄与するため”と掲げた。

所 在 地　熊本県宇土市宮庄町406番地２
構　　造　木造平屋瓦葺き
建築面積　265.802㎡
敷地面積　1,373.475㎡
建築工事　奥村建設　33,361,700円
電気工事　明和電気　4,099,400円
開　　館　平成３年11月17日

第３表　開館当時の展示品（平成４年11月）

種　別	資　料　名
大 太 鼓	大太鼓24（現在は26基） 佐野大太鼓（享和２年銘）
太　鼓	宇土市最古の太鼓「明賢寺蔵」　慶安４年銘
鉦	伊無田鉦２点（うち１点は文化13年銘） 上古閑鉦２点（うち１点は文政７年銘） 新川東鉦１点
油　単	上古閑油単１点　（天保15年銘） 伊無田油単１点　（明治45年銘） 伊無田陣幕（文久２年銘）
関係史料	ラフカディオ・ハーン著『東の国から』英語版（初版本） 鐘巻雨乞い絵巻（複製）（熊本市立博物館所蔵） 上古閑那須文書（文化・文政期雨乞い太鼓関係古文書３点） 伊無田雨乞い太鼓関係史料（大正～昭和前期）
解説関係	雨乞い太鼓分布パネル 太鼓関係年表 牛皮（体重約500kg牝） 椿原雨乞い大太鼓関係写真パネル　５枚 大太鼓フェスティバル写真パネル　８枚 大太鼓製作工程パネル４枚 各種雨乞い大太鼓のビデオ 関係書籍

③保存会

大太鼓の再生と並行し保存会組織の設立準備が進められた。「宇土大太鼓保存会（仮称）」第１回会議が平成２年２月13日に開催され、同年７月27日「宇土雨乞い大太鼓保存会」設立総会に至っている。

大太鼓の伝統文化を保存、継承していくことを目的に、大太鼓を所有する25地区の保存会（１地区は２基所有）と関係団体で組織している。ふるさと創生事業以降、大太鼓保存会組織を母体に大太鼓の活用が始まった。平成４年には、各地区保存会の後継者育成を目的とした「青年部」も発足し、現在は伝統文化の継承、宇土大太鼓のＰＲ活動のために県内外で様々なイベントに出演し、演奏を行っている。現在の大太鼓保存会の会長は田口信夫宇土市長。

第３節　大太鼓の活用

①大太鼓フェスティバル

昭和61年、大太鼓の再生が４基になったとき「市民夏まつり」が「市民夏まつり大太鼓フェスティバル」の名称に変わり、平成３年には、26基の大太鼓をステージ上で披露した。運営に関しては、各種団体の協力のもと実行委員会が実施している。フェスティバルには、地区保存会のほかに、ちびっこ轟太鼓、ちびっこありあけ太鼓、轟太鼓振興会、大太鼓保存会青年部等も出演し、大太鼓の市中パレードなどもあり、にぎわいを見せている。

第４表　大太鼓フェスティバル出演保存会一覧

回	開催年	出演数	保存会名
1	昭和61年	4	椿原　上古閑　馬門　堂園
2	昭和62年	4	椿原　上古閑　馬門　堂園
3	昭和63年	4	椿原　上古閑　馬門　網引
4	平成元年	4	椿原　上古閑　馬門　網引
5	平成２年	7	椿原　上古閑　馬門　網引　宮庄　引の花　栗崎
6	平成３年	8	椿原　上古閑　馬門　網引　宮庄　引の花　栗崎　伊無田
7	平成４年	8	椿原　上古閑　馬門　網引　宮庄　引の花　築籠　松原
8	平成５年	10	椿原　上古閑　馬門　網引　宮庄　引の花　栗崎　伊無田　築籠　松原
9	平成６年	7	椿原　上古閑　網引　宮庄　引の花　築籠　松原
10	平成７年	9	椿原　上古閑　網引　宮庄　引の花　栗崎　伊無田　築籠　松原
11	平成８年	7	椿原　上古閑　網引　宮庄　引の花　築籠　松原
12	平成９年	8	椿原　上古閑　網引　宮庄　栗崎　伊無田　築籠　松原
13	平成10年	6	椿原　上古閑　網引　宮庄　築籠　松原
14	平成11年	6	椿原　上古閑　網引　宮庄　築籠　松原

②新伝承・宇土太鼓26

熊本県内の伝統芸能の復活について早くから尽力されていた熊本県立劇場館長の鈴木健二氏は宇土の大太鼓についても強い関心を示された。ふるさと創生事業で張り替えられた大太鼓が、まだ地元での活用がなされていない現状を懸念し、宇土市の新しい文化の創造のために、作曲福田隆氏、振付藤間勘蘇女氏による、創作太鼓と踊りを組み合わせた「新伝承・宇土大太鼓26」を宇土市民に提供された。宇土の雨乞い大太鼓26基の演奏と踊手100名で構成されたもので、併せて衣装100名分も寄贈された。

踊りは、宇土市文化協会舞踊部の指導のもとに行い、太鼓は地区保存会の若手有志により練習に取り組んだ。１年もの練習を重ね、平成５年９月「熊本県民体育祭」で初披露となった。その後も各イベントに出演し、平成11年に開催された「くまもと未来国体」では、宇土市を代表する芸能として披露された。

第５表　新伝承宇土大太鼓26の出演

年	月	行　事　名	場　　所	太鼓数	踊　り　手	備　考
5	9	第48回熊本県民体育祭	宇土市運動公園	26	市文化協会舞踊部	初披露
7	2	熊本の空が響く	熊本県立劇場	26	市文化協会舞踊部	
7	9	九州民俗芸能の祭典	福岡マリンメッセ	15	市役所舞踊部	
7	10	熊本県民文化祭・宇城	宇土市民会館	8	市役所舞踊部	
9	2	いま緑川は流れる	熊本県立劇場	26	市役所舞踊部・鶴城中生徒	
10	8	第　回全国教職員相撲大会	宇土市民体育館	26	住吉中・網田中生徒	
10	9	第44回全日本実業団ヨット選手権大会	宇土マリーナ	26	住吉中・網田中生徒	
11	9	第54回国民体育大会ヨット競技	宇土マリーナ	26	住吉中・網田中生徒	
11	10	第54回国民体育大会相撲競技	宇土市民体育館	25	住吉中・網田中生徒	
11	12	宇城中学校音楽祭	ウイングまつばせ	3	鶴城中生徒	

第４節　大太鼓活用事業

平成９年からは、熊本県地域総合補助金「文化の香り高いまちづくり」の補助を受け、宇土雨乞い大太鼓活用事業を実施することになった。事業実施に先立って、基本計画書を作成することになり、その作成にあたっては「作成委員会」及び「小委員会」を設置した。

作成委員会は大太鼓保存会代表及び今後の活用計画推進に必要な関連領域に携わる民間・行政の代表者で構成され、そこで計画の枠組みを定め、計画案に対する助言と承認を行った。また小委員会は、計画書作成の作業部会として、実際に大太鼓及び付随する活動に携わっている18名で構成されることになり、基本計画の素案づくりを行った。

さらに特別指導員として、当時熊本県立劇場館長鈴木健二氏、江戸東京博物館研究員小島美子氏から、計画への指導・助言を受けた。

熊本県立劇場館長鈴木健二氏からのアドバイス（要約）

宇土は格調のある雅やかな風格を持ったまちである。こんなに大きな太鼓が26基もそろっているというのは、他に聞いたことがない。

まちの人の心を奮い起こすには何をしたらよいか。一番のとりかかりはそのまちが持っている伝承芸能である。そのまちの人々が先祖の代からエネルギーをつぎこんで作り上げてきたものをもう一度興すことが、村の心、町の心を興すことではないだろうか。伝承文化の行われているところに非行やいじめはない。この事実を地方分権が行われるようになった時の地域の教育の中で、しっかり覚えておいていただきたい。宇土大太鼓をたたくことが、宇土市民の生きがいであるというところまで持っていって初めて、太鼓は宇土市民の中に生きてくる。

江戸東京博物館研究員小島美子氏からのアドバイス（要約）

宇土の太鼓の大きな特徴は木星（きぼし）である。もともと、皮を留めるくさびがその機能を失い飾りとして残ったものであり、ビョウを使う技術が伝わってからこのようになったもので、全国的に見てもユニークな太鼓と言える。また、ケヤキを刳り抜いて作られているのも珍しい特徴で、このような太鼓は現在では作れないだろう。

日本では太鼓は単に音を出すものではなく、信仰的意味合いを持つと考えてよい。椿原の太鼓に見られる奉納の行事は、太鼓自体に一種の魂が感じられる。このような素晴らしい太鼓を全国一律的なものでなく、地元の住民が新たな文化の刺激を受け、自分たちの集落独自のリズムをもとに新しいものを創作していくことができればと考える。

この「宇土雨乞い大太鼓活用事業基本計画書」は、大太鼓26基を中心とした他地域に類例を見ない伝承文化の活用策について、①宇土市民の誇りをよびおこし、②老若男女を問わずに地域の人々との連携をはかり、③市民意識の高揚と産業の振興を理念とした。これらをふまえて、６項目の基本方針を立て実施した。

平成10・11年度事業の実施に当たっては、大太鼓保存会・宇城青年会議所・熊本県青年塾・商工会青年部・地区太鼓保存会の各代表と市役所プロジェクトチームが主体となり、多くの人々の協力を得て各事業とも目的を達成することができた。

（木下洋介・渕上真行）

第６表　大太鼓活用事業の基本方針と実績

項目	平成10年度	平成11年度
大太鼓及び付随する活動の活性化	①伝統的雨乞い大太鼓の再生と発展 ③地区における大太鼓を打つ機会の活性化 ⑤大太鼓に関する交流活動の活性化	②新創作太鼓の作成 ④大太鼓の発表活動の活性化
	・「第13回宇土大太鼓フェスティバル」 （フェスティバルの活性化・８月１日・市運動公園） ・「The Taiko ちびっこフェスタ」 ちびっこ轟太鼓結成10周年記念 （発表活動の活性化・11月８日・轟水源前広場） ・「宇城はひとつ太鼓ネットワーク'99」 （交流 活動の活性化・３月13日・市民体育館） 出演：城南火の君太鼓・不知火龍燈太鼓 松橋宇賀岳鬼岩太鼓・富合木原太鼓保存会 三角龍驤太鼓保存会・宇土雨乞い大太鼓保存会・今福ゆう・轟保育園・ありあけ保育園・松橋豊年餅つき踊り保存会・宇土御獅子舞 ・「雨乞い太鼓」作曲：今福　ゆう （新創作太鼓の作成）	・「第14回宇土大太鼓フェスティバル」 （フェスティバルの活性化・８月７日・市民体育館） ・「石橋大太鼓里帰り」 （地区の活性化・７月24日・轟水源前広場） ・「残波大獅子太鼓 in UTO」 （交流活動の活性化・３月５日・市民会館） ・「宇土さなぶり物語」制作・出演：大太鼓保存会有志 （発表活動の活性化・３月５日・市民会館）
大太鼓を打つ環境整備	①練習用太鼓等の整備 ③運搬機器の確保	②練習場の整備と確保 ④活動資金調達の工夫
	・平成９年度　練習用太鼓等の購入（宮太鼓３基） ・練習用太鼓等の購入 （団扇太鼓直径1.3m２基、宮太鼓９基他）	・太鼓等の購入（締太鼓４基・銅鑼１基他） ・大太鼓の修復 （上古閑・堂園・城塚・栗崎・中登・小舟・三蔵） ・椿原大太鼓台車新調
大太鼓リーダー・後継者の育成	①大太鼓リーダーの育成 ③リーダー・後継者のすそ野拡大	②地区ごとの人材発掘と育成
	・大太鼓リーダーの育成　青年部：練習49回 ・大太鼓後継者育成　指導：祭若衆 （受講者：轟保育園・有明保育園・11月８日） ・太鼓踊手育成　指導：市文化協会舞踊部 （受講者：網津小・緑川小・網田小・住吉中・網田中）	・大太鼓リーダーの育成　青年部：練習47回 ・太鼓踊手育成　指導：市文化協会舞踊部 （受講者：住吉中・網田中） ・太鼓教室の開催　指導：太鼓センター （受講者：宇土幼稚園・轟保育園・一般・２月18日） （走潟小・２月19日） ・大太鼓リーダー育成研修 （第６回日本太鼓全国講習会11月13日～14日・湯布院）
広報活動の展開	①大太鼓の認知度向上策	②広報面からの理解及び参加促進策の展開
	・大太鼓ポスターイメージキャラクター作成 ・大太鼓フォトコンテスト ・大太鼓ホームページ開設 ・「宇土雨乞い大太鼓」広報PRビデオ制作 ・宇土税務署に大太鼓を展示 ・網引太鼓保存会ラジオ番組出演　７月25日 ・椿原太鼓保存会テレビ番組出演　７月31日 ・大太鼓ＰＲ　（地蔵祭・８月23日・市民会館前）	・宇土税務署・市民会館ロビーに大太鼓を展示 ・大太鼓グッズ制作 ・大太鼓収蔵館天 井画・屏風の制作 ・大太鼓ＰＲ　（地蔵祭・８月23日・市民会館前）
大太鼓の調査研究の推進	①大太鼓由来等の調査研究を推進	②大太鼓の魅力等についての調査研究の推進
	・雨乞い大太鼓の調査研究（西日本歴史民俗学会） （引の花地区ビデオ記録・23地区聞き取り調査）	・雨乞い大太鼓の調査研究（西日本歴史民俗学会） ・雨乞い大太鼓調査報告書刊行 ・雨乞い大太鼓歴史民俗調査リーフレット作成 ・上新開大太鼓実測図面作成 ・大太鼓写真撮影
計画推進体制の整備	①推進協議会の設置と計画実施体制の整備	②他の計画との整合性確保と関係行政への協力要請
	・雨乞い大太鼓保存会組織改編 ・市役所プロジェクトチーム設置 ・大太鼓活用事業推進協議会設立 （部会会議47回実施）	・各事業の推進